【主な質疑応答】2013 年 12 月期 第 3 四半期決算説明会

**Q.　売上・利益が下方修正となった要因は？　来期にどう繋げていくのか？**

A.　目標水準については、アグレッシブではあったが、達成可能と判断していた。ＩＰＯ初年度に未達になることは、残念で申し訳なく思っている。

500ml を前年比で 15%以上伸ばす計画に対して、前年比 11%の伸びと計画には届かなかったが、「グリーンダカラ」、「天然水スパークリング」などは計画以上に伸ばすことができ、ブランド強化の観点で一定の成果があった。

500 ml の計画未達は、「トロッタ」「やさすい」などの新製品や「ペプシ」が計画に届かなかったことが主な原因。また、3Q に実施した積極的なマーケティング投資を十分回収できなかったことも大きかった。

来期に向けて、今後は確実な利益を創出する夏場の闘い方を検討する。欧州は、想定以上に経済環境が悪かったが、現在検討中の抜本的な改革を実行し、市場の不確実性にも対応できる収益体質を構築していく。

**Q.　現在の店頭を見る限り、今後も今の容器ミックスや価格競争が継続するように思われる。今後の容器と価格戦略をどう考えているのか？**

A.　大容量に関しては、飲用頻度の拡大という意味で重要と認識しているが、一定規模以上に増やす考えはなく、安定的に売って工場の稼働率を高める考え。重点ブランドを強化する一方、お客様から評価いただいている特茶のようなトクホや高収益なオンリーワン商品を強化することで、小容量を増やしていきたい。

**Q.　国内事業のコストダウンは計画以上に進んだようだが、来期の見通しは？**

A.　今期は、ペットボトルの軽量化やダンボールの省資源化、工場における生産性向上の取り組みなどにより計画以上のコスト削減を達成することが出来る見通し。来期についても、円安や原料高によるコスト悪化要因が想定されるが、それを上回るコスト削減を前倒ししてゆく。

**Q.　CVS で「天然水 2 リットル」を安い価格で販売しているが、利益への影響は？**

A.　価格プロモーションの実施によるコスト増はあるが、それを十分補う数量増や稼働率の向上による利益増がある。トータルで見れば、利益に貢献している。

**Q.　年間の国内の利益増減に関して、「その他」41 億円の内訳は？**

A.　自動販売機の設置増およびそれらの償却費、また上場に向けた体制強化や経費の増加であるが、いずれも計画通りの見通し。

**Q.　特茶は 3 ヶ月でどれくらいの販売数量となる見込みか？**

A.　初動 1 ヶ月で足元は良く、10 月単月では約 70 万ケース、9 月からの累計で約 160 万ケースの規模感。年内も好調に推移すると見ている。

**Q.　営業利益と当期純利益がほぼ同額の下方修正となっているが、その理由は？**

A.　営業利益で 45 億円の下方修正となったが、営業外損益で金融収支が改善する見込みで、経常利益は 35 億円の下方修正。法人税は国内で減少する見通しに対して、海外子会社で増加するため計画通り。特別損益も計画通りだが、少数株主利益が増えるため、当期純利益で 40 億円の下方修正となった。

**Q.　配当に関する考え方は？**

A.　配当性向はのれん償却前当期純利益で 30%以上としており、期末配当は当初の業績予想 590 億円をベースとして算出した 1 株当たり 58 円の支払を予定している。今回修正したのれん償却前当期純利益 550 億円に対しては 32.5%の配当性向となる。